

知的障害児教育における通知表を活用した 「個への対応」に関する検討(5)

知的障害養護学校での通知表改善とそれに基づく教育活動(作業学習)の分析

“Individualized Instruction”using Report Card in Special Needs Education
for Children with Intellectual Disabilities (5)

坂 本 裕*

SAKAMOTO Yutaka

I 問題と目的

第四報(坂本 裕, 2005)において, 知的障害養護学校小学部における生活単元学習での1単元全体の取り組みを対象とし, 検討事例児1名への目標設定, 評価の推移を中心に「個への対応」の分析を行い, 新しい通知表の授業レベルでの「個への対応」への有効性を明らかにした。

本報では, 坂本 裕(1998)の研究で掲載している知的障害養護学校中学部における作業学習での1授業の取り組みを対象とし, 授業に参加した検討事例児4名全員それぞれへの「個への対応」についての分析を行う。そして, 新しい通知表に記述された目標が授業の目標や手だてにどのように連動しているのか, また, 授業評価が通知表の評価にどのように連動しているのかの検討結果を基にして, 新しい通知表の授業レベルでの「個への対応」への有効性を明らかにする。

II 検討授業と検討児の概要

1 検討授業

作業学習「E 養まつり」。学校祭での販売活動を目指して取り組む約5週間にわたる作業活動を中心とした単元活動の中での, 農耕班の授業の1コマである。授業では, 生徒一人一人が自分の活動をもてるよう, 一人に任せる畑の範囲を広くしたり, プランター等がたくさん用意された。

2 検討事例児

U 児(男)。E 養護学校中学部3年生に在籍する軽度知的障害児。

T 児(男)。E 養護学校中学部3年生に在籍する脳性ま

ひに起因する重度知的障害児。

Y 児(女)。E 養護学校中学部2年生に在籍する脳性まひに起因する重度知的障害児。

H 児(女)。E 養護学校中学部1年生に在籍する脳性まひに起因する重度知的障害児。

3 検討資料

x + 1 年度通知表, x + 1 年度研究授業「作業学習」学習指導案, 関連資料(熊本県立菊池養護学校中学部, 1997., 坂本 裕, 1998)

4 方法

事例児4名それぞれの x + 1 年度通知表に記述されている個別指導目標と, 作業学習における授業の指導目標や手だてが関連性をもって設定されているのかが検討された。

III 結果と考察

Table 1 は本対象単元の授業展開例を示したものである。

Table 2, Table 3, Table 4, Table 5 は x + 1 年度2学期の事例児の通知表, x + 1 年度研究授業「作業学習」学習指導案等の中から目標(願い), 手だてに関するものを抜粋したものである。

1 U 児

中学部3年生であり, 比較の見通しをもって活動に取り組むことができるようになってきたU児に対し, 通知表の「具体的願い」には「E 養まつりでの販売を楽しみにし, 自分から販売準備などの活動にも積極的に取り組んで欲しい」という願いが設定された。しかし, E 養まつりの学習指導案の「願い」には通知表の「具体的願い」に対応した願いが設定されておらず, 通知表と学習指導案の連動性が低いように思わせる箇所がある。しかし, 通知表の「具体的願い」はU児が作業学習の時間中の取

* 岐阜大学教育学部障害児教育講座

Table 1 検討校のE養まつりに向けた作業学習(農耕班)の授業展開例(坂本 裕, 1998)

時間	生徒の活動	支援上の配慮点	備考
40分	<p>1 自分で担当している活動にひとりで、または、教師と取り組む。</p> <p>[U児]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EM堆肥を作る。(残飯貰い) ・温室内外の水やりをする。(EM液肥作り) ・ハウス内の水やりをする。(EM液肥作り) <p>[T児、A教師]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EM堆肥埋めをする。 <p>[Y児、Y教師]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腐葉土を運ぶ <p>[H児、S教師]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベランダ周辺のプランターに水やりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身支度などの準備ができた者から順次作業にかかる ・残飯に水分が多く処理に困るような時は、教師に相談するよう、予め伝えておく。 ・水やりの量が分かり、また、表面が濡いた状態に保つよう、畑に立てた竹筒を活用する。 ・EM液をポリタンクに入れ、蛇口を開く。 ・活動が広範囲のため、自転車を使用する。 ・活動(穴掘り)の手がかりとなるよう、T児が長靴を履いたら、鍬を2本用意するように声かけをする。 ・リヤカーにEMバケツを積み、第2畑に行く。 ・B児が穴を掘りやすいよう、教師も土を崩しながら一緒に穴を掘る。 ・バケツなどにT児が水をかけ、教師が洗う。 ・腐葉土は予め袋詰めをしておき、袋のままバケツに入れる。運搬はひとりでバケツを持って運ぶようにする。 ・大好きな水やりを繰り返せるよう、サルビアを植えたプランター百個を担当する。 ・水汲みと水かけの場所が離れないよう、水を溜めたペールを5個用意する。 ・作業ズボンが水びたしにならないよう、雨かっぱのズボンを着用しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・EMバケツ1 ・EMぼかし ・バケツ1 ・ジョウロ1 ・ポリタンク1 ・鍬2 ・リヤカー1 ・EMバケツ1 ・ホース ・たわし2 ・バケツ2 ・肥料袋 ・プランター 100 ・ペール5 ・ジョウロ2 ・雨かっぱ1
10分	<p>2 休息をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜休息を取り、これから行うプランター準備の活動について話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンデー
40分	<p>3 みんなでK農高からいただいた葉牡丹用のプランターの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土ふるいをし、ふるった土をU児まで運ぶ。[T児、S教師] ・腐葉土置き場から屋外作業場まで腐葉土を運ぶ。[Y児、H児、Y教師] ・プランターに土を入れる。[U児] 	<ul style="list-style-type: none"> ・天候にかかわらず、それぞれの同一の作業を同じ場所で行えるよう、簡易テントなどを予め設置しておく。 ・活動が持続するよう、土ふるいの役と土すくいの役を時折入れ替わる。 ・運搬の始点と終点がわかりやすいよう、それぞれの場所に目印となる椅子を置いておく。 ・T児がふるった土とY児、H児が運んだ腐葉土などを大型トレーで混ぜてプランター用の土を作る。その際、混ぜる土の割合を間違わないなど、丁寧に活動を行うよう、A教師が適宜声かけをする。 ・U児はプランター作りの1日のノルマ(10個)が早く達成したら、A教師が行っている育苗ポット作りを手伝い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易テント ・土ふるい1 ・スコップ2 ・トレー2 ・バケツ2 ・椅子2 ・大型トレー1 ・移植コテ3 ・ひしゃく1 ・プランター 10 ・育苗ポット
10分	<p>4 道具の片付けや屋外作業所の清掃をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の使った道具を中心に片付ける。 ・次回の活動を適宜話題にしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・箒 ・塵取り

Table 2 U児のx + 1年2学期通知表(抜粋)と作業学習「E養まつり」における取り組みについて

通知表(学期当初)		作業学習「E養まつり」学習指導案			通知表(学期末)	
様子と願い	具体的願い	子どもの様子	願い	手だて	育ち	達成状況
<p>今学期も9月の作品展での販売や11月のE養まつりでの販売などを楽しみにしながら、農作業をはじめとして、児童生徒会役員会活動などの活動に、そして、最後まで責任を持って取り組んでほしい。</p> <p>エ①EM農法や畑作りなどのいくつもの工程を一人で担当し、その活動をいねいに、そして、最後まで責任を持って取り組んでほしい。</p>	<p>ウ①E養まつりでの販売を楽しみにし、自分から販売準備などの活動にも積極的に取り組んでほしい。</p> <p>エ①EM農法や畑作りなどのいくつもの工程を一人で担当し、その活動をいねいに、そして、最後まで責任を持って取り組んでほしい。</p>	<p>・日によって意欲的に取り組んだり、そうでなかったりと、やや取り組みにむらみられる。また、使用した農具などをそのままにしていることが多い。しかし、野菜の育ちはとても楽しみ、販売活動にも熱心に取り組むことができる。自分から仕事を見つけて取り組み、姿勢も見えるようになってきた。</p>	<p>・EM堆肥作りプラントター作りなどの活動を一人で確実にやり遂げたい。</p>	<p>・毎回、同じ内容を一人で活動する場面を作業活動の前半に用意し、より責任を持って自分の仕事に取り組むようにする。その際、分からないことや難しいことが生じた際は、近くにいる教師と相談してから取り組むよう、予め伝えておく。</p> <p>・プラントター作りにおいても、教師との共同作業を取らずに並行作業を行うようにし、自分が分担当した量をむらなく行ったかの自己評価を行いやすくする。</p>	<p>今学期も児童生徒会の会長としての児童生徒会の仕事や学校のいろいろな活動に積極的に取り組むことができました。また、カレンダーなどを活用することで、修学旅行やE養まつりに向けた取り組みなどはある程度見通しを持ちながら取り組むことができました。(中略)</p> <p>E養まつりに向けた取り組みにおいて、校内を自転車で移動しながら、いくつもの作業をこなす、とても頑張ることができました。(後略)</p>	<p>ウ①1学期の農業公園での販売に向けた取り組みと同様に、自分から注文を取って袋詰めなどをして販売することができました。その中で作物の出来を褒めてもらうことがとてもうれしかったです。</p> <p>エ①時折、EM菌のぼかしを残飯にかけておいたり、道具をそのままにしていることもありました。しかし自分で手順を決め、自転車を活用しながら、いくつもの作業を行いました。また、耕転機を使って畑作りをしたり、自分から草取りを始めると、とても積極的に取り組む姿も見られました。</p>

Table 3 T 児の x + 1 年 2 学期通知表(抜粋)と作業学習「E 養まつり」における取り組みについて

通知表(2学期当初)	作業学習「E養まつり」学習指導案	通知表(2学期末)
様子と願い	子どもの様子	育ち
<p>今学期も1学期に引き続き、9月の作品展や11月のE養まつりを目指した取り組みや現場実習などに頑張りたいと思います。その中で、これまで以上に互いの気持ちや伝え合い、力を合わせて取り組むことができたいです。(後略)</p>	<p>・他の子どもの活動が気になることもありますが、自分で活動を決めてひとり取り組んだり、教師と一緒に続けて一つの活動に取り組んだりすることができている。きています。</p> <p>・スコップや鍬の操作がまだ難しい面もあるが、EMI堆肥埋め、土ふるいともにその手順は大まかに押さえているようである。</p>	<p>ウ①毎日、A先生とEMI堆肥埋めに取り組みました。自分から鍬を二本用意して、A先生に仕事の取り掛かりを知らせる様子が毎日のように見られました。そして、EMI用バケツをリヤカーに乗せ、自分からリヤカーを引き、畑へと向かいました。鍬での穴掘りはまだ難しいところもありましたが、堆肥返しやバケツ洗いと一通りの工程を教師と共に取り組むことができました。</p> <p>エ①パンジーや葉ボタン用のプランターや高菜などの育苗ポットに入る土のふるいかけを担当しました。3か月ほど取り組みましたが、後半では教師の手を借りずひとりで土ふるいを担当することができました。流し作業の中で、土ふるいが他の工程より早く進んでいる時は、友だちや教師の声かけで他の工程を手伝う姿も見られました。(後略)</p>
<p>具体的願い</p> <p>ウ①農作業において、同じ活動を一定期間用意したり、雨天時も雨合羽を着用して活動をしたりすることで、自分から進んで作業に取り掛かり、続けて取り組んでほしい。</p> <p>エ①作業の時間を多く設定したり、活動量を豊富にしたりすることで、作業に一層頑張って取り組んでほしい。</p>	<p>・EM堆肥埋め、土ふるいなどの作業を教師と一緒に進めてほしい。</p>	<p>達成状況</p>
<p>手だて</p> <p>・鍬、スコップ、リヤカーなどの道具をできるだけ自分で用意するようにし、担当している活動への気持ちが高めるようにする。そして、その準備ができ次第、すぐに活動に取りかかるようにする。</p> <p>・何でもひとりでやれたが、時々教師と一緒にやりたがる時がある。各活動とも最初に少し見せたり取り組む状況を作る。そして、その様子に合わせて、その日の支援の様子を決めるようにする。</p>	<p>今学期も農作業を中心に泥まみりやこぼれが心配なところまで苦手で言われた女の子の先生(A先生)と作業のペアを渡しましたが、力仕事は任せておぼろげに頑張りました。自分の予定と違ったり、待たされると、機嫌が悪くなることもまだまだありますが、毎朝の仕事を直し、自分の仕事をやり終えたりすることができました。また、流し作業の一工程を担ったり、友だちの作業を手伝ったりする姿も見られました。(後略)</p>	<p>ウ①毎日、A先生とEMI堆肥埋めに取り組みました。自分から鍬を二本用意して、A先生に仕事の取り掛かりを知らせる様子が毎日のように見られました。そして、EMI用バケツをリヤカーに乗せ、自分からリヤカーを引き、畑へと向かいました。鍬での穴掘りはまだ難しいところもありましたが、堆肥返しやバケツ洗いと一通りの工程を教師と共に取り組むことができました。</p> <p>エ①パンジーや葉ボタン用のプランターや高菜などの育苗ポットに入る土のふるいかけを担当しました。3か月ほど取り組みましたが、後半では教師の手を借りずひとりで土ふるいを担当することができました。流し作業の中で、土ふるいが他の工程より早く進んでいる時は、友だちや教師の声かけで他の工程を手伝う姿も見られました。(後略)</p>

Table 4 Y 児の x + 1 年 2 学期通知表(抜粋)と作業学習「E 養まつり」における取り組みについて

通知表(2学期当初)	作業学習「E養まつり」学習指導案	手だて	育ち	達成状況		
<p>様子と願ひ</p> <p>2学期当初は、暑さのためか疲れやすい様子も見られましたが、笑顔はたくさんでいています。</p> <p>今学期も体調に気を付けながら、E養まつりの取り組みなどで、自分から活動する姿が見え、喜んでいてほしい。</p>	<p>具体的願ひ</p> <p>ウ①場の設定や教師の声かけなどを工夫することで、プラントナー作りの一工程(腐葉土運び)を担当してほしい。</p> <p>エ①得意としている運搬活動をベースにして、一定の活動を毎日用意したり、補助具などを検討すること、農耕作業に喜んで取り組んでほしい</p>	<p>子どもの様子</p> <p>・運搬活動は昨年から継続して取り組んでおり、自分から取り組む姿も見られるようになってきている。バケツを離れた時も教師の声かけで、自分からバケツを握って運ぶことができる。</p> <p>・教師と一緒にバケツを握るような支援を行うと、教師に体を任せようとすることが多い</p>	<p>願ひ</p> <p>・腐葉土運びを教師と続けてほしい。</p>	<p>手だて</p> <p>・運搬のルートを一元化することで、運搬の起点と終点をできる限り分かちやすくし、続けて取り組むことができるようにする。</p> <p>・運ぶ途中でこぼすことを防いだり、畑に均一に返しやすいうように、予め教師が袋詰めをした腐葉土をバケツに入れて運ぶようにする。</p> <p>・運搬の際は教師によりかかったりしないよう、教師もできるだけ同時行動を取り、声かけを主に活用した支援を行う。</p>	<p>育ち</p> <p>今学期は秋の心地よい日差しの中で自分から屋外に出て、友達や教師と関わろうとする姿がよく見られました。また、E養まつりに向けた農作業の取り組みなどにおいても、笑顔でバケツに入った腐葉土などを運ぶなど、仕事そのものを頑張ると共に、その中で教師との関わりを楽しんでいるような様子が多々ありました。</p> <p>(後略)</p>	<p>達成状況</p> <p>ウ①ハンジューや葉ボタン用のプラントナーや高菜などの育苗用のポットに入れる腐葉土の運搬を行いました。この中で、腐葉土置き場と運ぶ先が見通せるようにし、それぞれに椅子に置いて目印にしたり、双方から名前を呼んだりすること、Y児さんの活動にできる限り流れをつけるように努めました。コースを外れてしまうこともありました。予め袋詰めして何往復も運ぶことができました。</p> <p>エ①ハウスや温室の畝にのせる腐葉土や腐葉土を作る際に混ぜ込む堆肥などの運搬を行いました。その際、運搬用のバケツを手から離してしまっても中身がこぼれないように、予め袋詰めをしました。初めのうちは教師の顔を伺いながらバケツから手を離す様子も見られましたが、しかし、教師の称賞や励ましの声かけの中で、笑顔で続けて運ぶ距離が段々長くなりました。</p>

Table 5 H 児の x + 1 年 2 学期通知表(抜粋)と作業学習「E 養まつり」における取り組みについて

通知表(2学期当初)		作業学習「E養まつり」学習指導案			通知表(2学期末)	
様子と願い	具体的願い	子どもの様子	願 い	手だて	育 ち	達成状況
<p>(前略)</p> <p>E養まつりに向けて、作業学習中心の毎日となります。コミュニケーションを十分にとり、一緒に楽しみながら活動に取り組みたいと思います。また、それが毎日の生活の楽しみに広がってほしいことを願っています。</p>	<p>ウ①友達や教師と共に活動する場面を多く設定することで、関わりを多く持ちながら楽しく作業に取り組んでほしい。</p> <p>エ①水やりや運搬など、毎日同じ活動を沢山用意することで、作業にスムーズに取り掛かり、続けて取り組んでほしい。</p>	<p>・他のことに気が取られることが多く、水やり、腐葉土運びの活動をひとりで続けて行うことはまだ難しい。しかし、教師の声かけなどの支援で元の活動に戻ることはできる。</p> <p>・教師の関心を常に受けていたように、教師の関心が向いていないような時は座り込んだり、道具を放り出したりする。</p>	<p>・水やり、腐葉土運びを教師と続けて行ってほしい。</p>	<p>・左手は右手に比べて保持する力が弱いので、右手でジョウロやバケツの握り手を持つように身体促進する。</p> <p>・小型のジョウロでも水を満タンにすると保持することも難しいので、ジョウロには半分程度の水を汲むようにする。</p> <p>・水汲み用のポリバケツを5か所に用意し、苦手な水の運搬をできるだけ行わなぐてすむようにする。</p>	<p>(前略)</p> <p>E養まつりに向けて、小学部と同でちようちんの色塗りのぼり立を行いました。手順がつかめないという戸惑う様子が見られましたが、慣れてくると刷毛を使って何枚も色を塗ったり、出来上がったちようちんを運んだりと熱心に取り組みました。作業学習への取り組みも日に日になくなり、水やりをする先生の所に喜んで駆け寄る姿が見られました。</p> <p>(後略)</p>	<p>ウ①プラッター作りの腐葉土の運搬では、教師と一緒に活動するだけでなく、同じ活動をしている友だちの手を引いて一緒に活動しようしたり、友だちのバケツも運んだり、意欲的にそして楽しみながら作業に取り組む姿が見られた。</p> <p>エ①作業の前半に毎日ジョウロでの液肥やりに取り組みました。予め水をためておいた大型のペールを複数個用意し、活動ができるだけ塗切れないようにしました。ジョウロに水を汲む際には教師と一緒に行いましたが、水やりそのものはひとりで行うことができようになり、毎日教師とふたりで百個近いプラッターの水やりを精を出しました。</p>

り組みだけではなく、学校に他児よりも早く登校して野菜の収穫や手入れ等にも取り組んだり、昼休みに販売準備をしたりしていたことに対応した「願い」であった。通知表が「学習形態」に合わせた項目のみであったならば設定されることのない「願い」であったと思われる。つまり、通知表が「学校教育目標」に合わせた項目で学校生活全体にわたって検討がなされていたからこそ、設定された「願い」であったと考える。

一方、作業学習の時間においての取り組みに関しては、通知表、学習指導案ともに「手順の確実さ」に関する願いが設定されていた。学期当初の通知表の「具体的願い」で設定された「EM 農法や畑作りなどのいくつかの工程を一人で担当し、その活動を丁寧に、そして、最後まで責任をもって取り組んで欲しい」が、学習指導案では Table 2 に示したように「EM 堆肥作り、プランター作り」の作業に絞り込まれ「手だて」として「作業順の固定化、教師のかかわり方、作業形態の工夫」が検討されていた。そして、その評価が学期末の通知表に記載されていた。しかし、通知表の「具体的願い」、「具体的願いの達成状況」には学習指導案に記載された「手だて」に関する記述が全くなかった。通知表の記載量から記載することが困難な面もあるが、指導の継続性からすると、通知表にも「手だて」に関する記載が必須のように思われた。

2 T児

作業的な取り組みに大変興味を示し、自分から取りかかろうとする気持ちの強いT児の通知表の「具体的願い」には、「農作業において、同じ活動を一定期間用意したり、雨天時も雨合羽を着用して活動をしたりすることで、自分から進んで作業に取り掛かり、続けて取り組んで欲しい」と、「作業の時間を多く設定したり、活動量を豊富にしたりすることで、作業に一層頑張る取り組みで欲しい」といった日課の定常化や作業量の確保などにより、活動全体への主体的な取り組み方がなされるような「願い」が設定されていた。一方、学習指導案の「願い」には、Table 3 の通知表の「具体的願い」に記載されたこうした作業活動そのものへの取り組みについての下位的な「願い」は設定されていなかった。ただし、単元計画の展開には「雨合羽の利用」、「簡易テントの設置」といった配慮事項が記され、通知表の「具体的願い」の具現化が図られていた。そして、それらを受けた形で通知表の「具体的願いの達成状況」には学期末の姿が示された。こうしたT児への願いや支援は、T児自身の育ちや変化というよりも、教師の対応が的確に実施されたかが評価の対象となるものと思われる。そのため、学習指導案に下位的な「願い」の記載がなかったとしても、「配慮事

項」としての記載があれば、目標設定の一貫性に欠けるものではないと考える。

また、脳性まひに伴う作業動作の不安定さがあるため、作業動作の安定を意図した願いとしての「EM 堆肥埋め、土ふるいなどの作業を教師と一緒に行ってほしい」が授業における「願い」として設定されていた。この「願い」については学期当初の「具体的願い」には記載されていなかった。通知表の記載量の少なさに起因したものとも思われるが、個別指導計画としての意図を通知表にもたせる以上、なんらかの記載が必要であったと思われる。

3 Y児

障害の状況が比較的軽度ではあるが、作業学習に一年間取り組む中で、得意とすることやその支援のあり方が明らかになってきたY児の通知表の「具体的願い」として、「場の設定や教師の声かけなどを工夫することで、プランター作りの一工程(腐葉土運び)を担当してほしい」と、「得意としている運搬活動をベースにして、一定の活動を毎日用意したり、補助具などを検討したりすることで、農耕作業に喜んで取り組んでほしい」が設定された。さらに、Table 4 に示したように、学習指導案では前年度の取り組みの様子が押えられ、それに対応する「手だて」について「環境設定」「補助具」「教師のかかわり方」から検討がなされた。そうしたY児のとらえや「願い」、「手だて」が有効であったのか総合評価が通知表の「具体的願いの達成状況」に記載されていた。

Y児については「願い(目標)」と「手だて」、「達成状況(評価)」にある一貫性がみられたが、特に「願い(目標)」を設定する際には、それに対応した「手だて」も同時に検討がなされなければならないと考える。知的障害児教育においては、往々にして児童生徒の障害の状況からとの理由付けをして「願い(目標)」を体験目標のレベルで止めてしまった学習指導案を目にすることが多いように思われる。学習内容によっては体験目標や向上目標となることもあるが、原則的には達成目標のレベルまで検討することが肝要である。そのためには、Y児の場合のように、「願い(目標)」の記述は、その手だても併記された記述であるべきである。つまり、「願い(目標)の達成状況(評価)」で真に評価されるべきは生徒の行動ではなく、教師のアセスメントや指導計画、さらに、それらに基づいた実践が適切であり、その分岐点となるのが「手だて」の設定だと考えられている。

4 H児

中学部1年生のH児にはまずは作業的活動への取り組み掛かりがよりスムーズになって欲しいと、通知表の「具体的願い」にも「友達や教師と共に活動する場面を多く

設定することで、関わりを多く持ちながら楽しく作業に取り組んでほしい」や、「水やりや運搬など、毎日同じ活動を沢山用意することで、作業にスムーズに取り組むことが、続けて取り組んでほしい」が設定された。こうした「願い」への具現化として、Table 5 に示したように、「友達や教師と共に活動する場面を多く設定することで」については「作業の前半は教師1名とペアを組んでの水やり、後半は生徒2名、教師1名での腐葉土運搬」が用意された。「水やりや運搬など、毎日同じ活動を沢山用意すること」については「プランター100個の水やり」を担当するなど、豊富な作業量が準備された。さらに、学習指導案の本時の「願い」にはそれらの単元全体の「願い」や「手だて」を受けて、「水やり 腐葉土運びを教師と続けて行ってほしい」が設定された。そして、「手だて」として身体促進や補助具が記された。「具体的願いの達成状況」には学期末の姿として「教師や友達とのかかわりをもちながら作業に意欲的に取り組む姿」や「毎日の水やりに自分から取り組む姿」が記載された。

このように、中学部1年生の作業学習における取り組みとして、通知表に「人とのかかわりの中で、自分から作業に取り組んで欲しい」といった願いが設定された。そして、学習指導案にて、「子どもの様子」として「活動遂行の状況」、「人とのかかわりの状況」から検討が加えられ、「手だて」としてスキルに関する検討がなされていた。このように通知表における記載から学習指導案における記載へと進む中で、細かな検討がなされ、いわゆる態度に関する願いであっても、スキルに関する課題分析的な押さえがなされていた。知的障害養護学校の学習指導案などにおいては往々にして態度とスキルは相異なるものとするような記載を目にすることもある。しかし、態度も個々のスキルの集合体としての発達観のもと、より具体的な行動レベルでの確実な検討が必要であると考える。

IV 総括

本報告の第一報、第二報では知的障害児教育において「個への対応」をより確かなものとするために活用可能な通知表の形式・内容・使用方法に検討を加えた結果を記述した。そして、第三報から第五報では、1998年に報告している筆者が中心になって実践研究を行った知的障害養護学校での論文と筆者の論文、そして、2002年に報告している筆者らの論文から「知的障害養護学校小学部での生活単元学習」、「知的障害養護学校中学部での作業学習」、「小学校知的障害特殊学級での日常生活の指導」を

取り上げ、実際の教育活動におけるその有効性を検討した結果を記述した(熊本県立菊池養護学校小学部,1998.坂本 裕,1998.坂本 裕・西 正道 2002.,坂本 裕,2003.坂本 裕・西 正道 2004.坂本 裕,2005)

これらの検討結果を基にすると、知的障害養護学校、知的障害特殊学級の通知表に、従来の学期末の「学習結果」の記述に加え、学期当初に学校教育目標の観点から「願い(目標)」を設定して、教師間の検討会や保護者との懇談会を実施する等の通知表の新しい使用法は授業の評価とも連動性があり、「個への対応」に効果的であるということが実証されたことになる。また、「願い(目標)」の記述に「手だて」を併記し、「願い(目標)の達成状況(評価)」では「手だて」をも含めた評価を行うことが、児童生徒一人一人のニーズに応じた教育実践に重要となることも指摘された。

文献

- 熊本県立菊池養護学校中学部(1997)「働く喜び わかちあう」生活づくり・発達の遅れと教育,482,50-58.
- 熊本県立菊池養護学校小学部(1998)「遊ぶ楽しさ わかちあう」生活づくりをより確かに・発達の遅れと教育,485,35-40.
- 坂本 裕(1998)精神薄弱養護学校中学部における作業学習の充実を求めて・職業リハビリテーション,11,45-50.
- 坂本 裕・西 正道(2002)知的障害児教育における通知表を活用した「個への対応」に関する研究(1) 知的障害特殊学級での通知表改善とそれに基づく授業の分析 . 岐阜大学教育学部研究報告(教育実践研究),4,119-127.
- 坂本 裕(2003)知的障害児教育における通知表を活用した「個への対応」に関する検討(2) 知的障害養護学校での通知表改善の試み . 岐阜大学教育学部研究報告(教育実践研究),5,183-190.
- 坂本 裕・西 正道(2004)知的障害児教育における通知表を活用した「個への対応」に関する検討(3) 知的障害特殊学級での通知表改善とそれに基づく教育活動の分析 . 岐阜大学教育学部研究報告(教育実践研究),6,219-226.
- 坂本 裕(2005)知的障害児教育における通知表を活用した「個への対応」に関する検討(4) 知的障害養護学校小学部での通知表改善とそれに基づく教育活動の分析 . 岐阜大学教育学部研究報告(教育実践研究),7,275-278.